

五十嵐ゆうこの米國小売業最新レポート

2022年4月1日

Meal-Planning App Links to Supermarkets

健康改善を目指し、食事計画アプリが食品小売業とリンク

食事計画アプリが全米トップのスーパーマーケットチェーン Kroger とリンクし、米国人の健康を守る為に食が薬となって体を癒す **“Foods as Medicine”** にフォーカスした取り組みをスタートしました。

レシピの閲覧及び食材購入リストの作成を行うアプリ Foogal は、糖尿病や糖尿病予備軍、自己免疫疾患の予防・管理、総合的な健康達成の支援の為にシェフや栄養士、医師からメンバーを集い、チームを立ち上げた事を 2022年3月24日に発表しました。



Foogal の創業者トッド・ノベル氏は、「Foogal は、米国人の食生活を健康的に改革するため全力で挑みたいと考えています。我々の目標は**“あなたの家族全員の健康を向上させる事”**です。弊社のアプリは現在 Kroger の店舗とリンクし WEB での食材購入も出来るようになりましたが、近い将来に Foogal チームが数多くのグロサリー・チェーンとリンクを追加する予定です。」と述べています。

ユーザーはアプリストアで Foogal をダウンロードし、個人または家族のプロファイルを作成することができます。



このアプリはウェルネスプロトコル（健康状態を維持するための食事計画）、自己免疫プロトコル、インスリン抵抗性などの3つのプロトコル（食事計画）を識別し、個々の健康状態や目標に最も適したレシピを理想的にカスタマイズできるようにしてあります。

Foogal とのリンクを他の食品小売業よりも一早く導入し、一昨年前に引き続き 2021 年も過去最高業績を記録した Kroger 社は、今月初めにフロリダ州オーランドで『2022 年ビジネスアップデート』を開催しました。

同社の経営陣は、Kroger が新規の取り組みとデジタルの加速で業界をリードする戦略についての最新情報を提供しました。

その中で会長兼 CEO のロドニー・マクマレン氏は、Kroger がかつてないほど食品小売業界の第一線を走っており「イノベーション、テクノロジー、パートナーシップ、人材への投資が、成長のための明確な道筋を示している」と熱く語りました。

Kroger 社は未来に向けて、同社の中核資産と競争力の強さを活用し、パンデミックによってもたらされた様々な構造の変化に対応することで同社が競合の中で優位な立場を維持し、今後も長期にわたり持続的な成長と収益性を実現する事を約束しています。



国際糖尿病連合 IDF が昨年発表した世界での糖尿病患者ランキングで、米国は中国、インドに続く第3位を20年以上前からキープし続けています。

統計では年間で糖尿病による合併症で命を落とされる人は世界で500万人以上おり、6秒に1人が亡くなっているそうです。

新型コロナウイルスが蔓延していた米国において糖尿病の合併症が原因で重篤な症状となられた患者がトップを占めていました

この事に関して私が常に思い出すのは、2008年に米国で公開され、2010年度のアカデミー賞ドキュメンタリー部門にノミネートされただけでなく、数多くの賞に輝いた“**アメリカ人の食の間**”に切り込んだ映画『The Food Inc.』の衝撃的なシーンの1つです。

共働きの夫婦と子供たちがハンバーガーチェーンで夕食を食べている際のインタビューで家族は週の半分は同じ店で夕食を購入し、しかも夫婦はどちらも糖尿病を患っていると回答していました。

インタビュアーは、「夫婦の健康や子供たちの栄養を考慮し、グロサリー店でもっと豊富に野菜や体に良いものを買って自炊する方が良いと考えませんか？ファーストフードは塩分も多いのでは？」と問いましたが、それに対して母親は「高額な糖尿病の薬代を支払う為に共働きをされており、食事を作る時間も惜しい。ハンバーガーは野菜も肉もパンも含まれており、手軽でパーフェクトな食事だと思う。しかも価格もリーズナブルだ。勿論もっと野菜を買って食べる方が良いとは思いますが、バーガー1つとレタス1つの値段はほとんど変わらない。レタス1つだけじゃお腹一杯にならないから、他に肉やパンを買わないといけない。余分なお金もかかるし、少しでもお金を節約して薬代にまわさないと働けなくなる。普段から家で料理をあまりしないから面倒だし、病気を抱えているから常に疲労を感じており、結局は容易なファーストフードを選んでしまう。」と答えていたのがとても衝撃的でした。

彼らは『薬を買うのか、野菜を買うのか？』という究極の選択に迫られていたのです。

統計によれば2000年以降にアメリカで生まれた3人のうち一人は糖尿病予備軍であるとされています。

そして米国の医療費は日本の3倍以上だと言われており、中流家庭でも高額な治療費で破産申告をすることが頻繁に起こっています。

この映画に出ていたような家庭で育った子供たちは、成長しても料理の方法を知らない事が多く、糖尿病を始めとする成人病にかかる比率も高いとされています。

一方で糖尿病の50%以上は予防可能だと言われています。

予防には頻繁に身体を動かすことも大事ですが、やはり毎日の食事が多くかかわってきます。

今回のようなアプリと全米で展開する大手グロサリー・チェーンが高い意識を持ち、アメリカ人を健康に導いていく取り組みとその普及は、重要な事であると強く思います。

